



石汝杰教授

石汝杰教授退職記念号に寄せて

外国語学部長 神 本 忠 光

石汝杰先生は1947年10月に中国蘇州でお生まれになった。日本では団塊の世代にあたるが、中国では「老三届（中国語の発音で、ラオサンジエ）」と呼ばれる世代で、青年時代はさぞかし苦勞なされたことと思われる。老三届とは『白水社中国語辞典』（2002年）によれば、「文化大革命中の1966年から68年まで3年間の中学・高校卒業予定の生徒；十分な教育を受けないまま卒業が延期され、その後下放して労働をしたので、彼らを同一の世代と見なし‘老三届’と言う」とある。先生は文化大革命（1966年～1976年）という政治闘争がもたらした混乱の中、政治の波に翻弄されながら青春時代を送られたのである。この世代の中国の人々の苦勞は戦後生まれの日本人には到底想像もつかないであろう。

文革終了後に大学に入学し、上海の名門大学である復旦大学大学院の修士課程を終えられたのが1985年、38歳の頃である。会社員で言えば既に中堅どころの年齢である。その後「失われた青春時代」を取り戻すべく、中国語学、特に故郷のことばである蘇州語や上海語を代表とする呉方言の研究に精力的に取り組まれることとなる。その研究業績は、本号所収の先生の業績目録にあるとおり、30代に研究生活をスタートさせた人とはとても思えないほどの膨大な数である。

先生のお名前は中国語方言の研究者の間では中国、日本はもとより世界的に知られており、中国国内外の中国語方言の研究に関わる人名や書名などをおさめた『漢語方言学大詞典 上巻』（広東教育出版社2017年）には先生の略歴・業績を紹介した人名項目があり、また先生の著書である『明清呉語詞典』（宮田一郎氏との共著）、『明清呉語和現代方言研究』、『呉語読本—明清呉語読本和現代蘇州方言』、『呉語文献資料研究』、翻訳書『漢語方言地理学』（ウィレム・A・グロータース著 岩田礼氏との共訳）がそれぞれ項目を立てて紹介されている。このうち明清時代に呉方言で書かれた小説や民間歌謡などの語彙をおさめた『明清呉語詞

典』には、「特定の時代の方言語彙を収録した辞書としては中国語の研究史上初」という旨の評価がされており、中国語の方言研究において先駆的な業績を残されたとと言える。

2015年には米国の著名な中国語学者であるリチャード・V・シモンズ教授（『漢語方言学大詞典 上巻』に人名項目あり）に招かれる形で、1年間ラトガース大学に研究留学し共同研究を行っている。

このように呉方言の大家でいらっしゃるにもかかわらず、先生には少しも権威ぶったところがなく大変気さくでユーモアにあふれる方で、こうしたお人柄が多数の日本人研究者や米国人研究者との共同研究を可能にしてきたものと思われる。先生のお人柄は、ひとえにその笑顔に現れている。石先生はキャンパス中で一番笑顔に溢れた人であると言っても過言ではない。私と同様に研究棟の3階に研究室をお持ちであり、廊下で遭遇すると、いつも片手を挙げてニコッと笑って挨拶をされる。厚めの眼鏡の奥に見える目は限りなく柔和で、人間味溢れた優しさを湛えている。

教育面では、中国語の会話や作文の授業を通して言語学的知識や理論に裏打ちされた中国語教育を学部生に行って頂き、また先生のご専門である中国語方言学、音韻学、中国語史の科目では、ともすれば難解になりがちな極めて専門的な内容を日本語の漢字音や漢語と比較対照させることで学生の関心を引き寄せ、わかりやすく講義して下さった。大学院教育においても博士課程の指導教授として多大なる貢献を賜ったことは言うまでもない。国内外から先生の指導を受けたいと学生が集まり、博士として世に送り出した先生の教え子は今、日本や中国の大学で教鞭をとり活躍しておられる。

プライベートでは先生は大変な愛妻家であり、奥様の運転する車で大学に通われ、お宅に帰られるのをしばしばお見かけするほどのおしどり夫婦でいらっしゃる。これからも奥様と一緒に末永くご健康でお過ごしになることを心よりお祈り申し上げます。

付記：本文の執筆に際して、東アジア学科の野田耕司先生よりご協力を賜った。ここに記して感謝申し上げます。

石汝杰教授 略歴

学 歴

1978年10月～1982年8月 江蘇師範学院中文系（学士）

1982年9月～1985年7月 復旦大学大学院中文系・現代漢語専攻（文学修士）

職 歴

1985年8月～2006年3月 蘇州大学中文系（講師、准教授、教授）

2006年4月～2018年3月 熊本学園大学外国語学部教授、同大学院国際文化研究
科教授

2018年4月より 熊本学園大学外国語学部シニア客員教授

所属学会および学会活動

中国語学会

漢語音韻学会

日本中国語学会

大会運営委員（2011～2012年）

九州支部代表（2012～2014年）

九州中国学会

理事（2011～2016年）

全国漢語方言学会

理事 (1999～2003年)

江蘇省語言学会

副会長 (1997～2006年)

蘇州市語言学会

会長 (1996～2006年)

主要研究業績

《明清吴语词典》(和宫田一郎共同主编、上海辞书出版社、2005年)

《明清吴语和现代方言研究》(上海辞书出版社、2006年)

《吴语文献资料研究》(好文出版、2009年)

《吴语字和词研究》(上海教育出版社、2018年)

《江淮官话与吴语边界的方言地理学研究》(与史皓元 (Richard V. Simmons)、
顾黔合作、上海教育出版社、2006年)

《汉语方言地理学》(贺登崧 (Willem A. Grootaers) 著、与岩田礼合作翻译、上
海教育出版社、2003年、增订版2012年)